

VI) 情報の提供、諸報告に関する事項

1. 情報の提供方法及び提供先

1) 郵送 (*印は注意報のみ)

○国関係

*農林水産省 消費・安全局植物防疫課、*同中国四国農政局 消費安全部、同島根農政事務所(統計部、地域第一、二課)、気象庁松江地方气象台、同西郷測候所。

○独立行政法人

農業環境技術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター、同果樹研究所、同果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点、同野菜茶業研究所、同近畿中国四国農業研究センター。

○他県関係

*鳥取、*岡山、*広島、*山口、*徳島、*香川、*愛媛、*高知、各県担当課。

○県内関係

農業技術センター、島根県立松江農林高等学校、同出雲農林高等学校、同邇摩高等学校、同矢上高等学校、同益田翔陽高等学校、同図書館、各病害虫防除員(果樹)。

○県内団体

島根県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会島根県本部、島根県農業共済組合連合会、農業振興協会、島根県農薬卸商協会。

○報道機関

朝日、山陰中央、サンケイ、島根日日、中国、毎日、読売 各新聞社出雲支局(出雲市役所記者室)、NHK松江放送局、同出雲通信部、山陰放送、同ラジオ業務部、山陰中央テレビ放送局、同出雲通信部、日本海テレビ。

2) FAX

○県内関係

島根県農林水産部 農業経営課、同農畜産振興課、東部、西部農林振興センター各農業普及部(松江、浜田、安来、中海干拓、雲南、出雲、県央、大田、益田)、隠岐支庁 農業普及部、同島前地域振興グループ、中山間地域研究センター、農業大学校、各市町村、各病害虫防除員(水稻)。

○報道機関

日本農業新聞松江支局、同中国四国支所。

3) メール

県内各農業共済組合。

4) ホームページ

発生予察情報(発生予報、特殊報)。

2. 発表状況

(1) 発生予察情報の発表状況

種 類	発表回数	発表部数	対 象 病 害 虫
発生予報	10回	240部	<p>○イネ 葉いもち4回、穂いもち5回、紋枯病7回、白葉枯病4回、縞葉枯病3回、萎縮病2回、黄化萎縮病2回、ヒメトビウンカ5回、ニカメイチュウ7回、ツマグロヨコバイ9回、イネドロオイムシ2回、イネミズゾウムシ5回、セジロウンカ3回、トビイロウンカ5回、コブノメイガ4回、斑点米カメムシ類5回。</p> <p>○ムギ うどんこ病3回、赤かび病3回、さび病類3回。</p> <p>○ダイズ ハスモンヨトウ3回。</p> <p>○ナシ 黒斑病10回、黒星病7回、シンクイムシ類8回、ハマキムシ類4回、ハダニ類10回、アブラムシ類4回、カメムシ類2回。</p> <p>○カキ 円星落葉病2回、炭そ病1回、うどんこ病5回、カキミガ4回、チャノキイロアザミウマ2回、カメムシ類4回、カキクダアザミウマ2回。</p> <p>○果樹全般 カメムシ類4回。</p> <p>○キャベツ 黒腐病2回、菌核病2回。</p> <p>○アブラナ科野菜 アブラムシ類1回、コナガ2回、アオムシ1回、ハスモンヨトウ2回。</p>

種 類	発表回数	発表部数	対 象 病 害 虫
発生予報			○タマネギ ボトリチス属菌による葉枯れ3回、べと病3回、腐敗病・軟腐病3回、白色疫病1回。 ○イチゴ 灰色かび病2回、アブラムシ類2回。
特 殊 報	2 回	2 5 0 部	○アワダチソウグンバイ ○ミナミアオカメムシ

3. 発表内容

1) 特殊情報

- (1) 第1号(平成19年7月26日)
- 1 病虫害名 : アワダチソウグンバイ *Corythucha marmorata*(Uhler).
 - 2 発生作物 : キク
 - 3 発生確認場所: 松江市及び出雲市(露地ギク栽培圃場)
 - 4 発生確認の経緯
 - 1) 平成19年7月9日に松江市の露地ギク栽培圃場においてグンバイムシの寄生を確認した。採集した成虫を神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、アワダチソウグンバイとの連絡があった。その後、出雲市の露地ギク栽培圃場(農業技術センター内)においても発生を確認した。
 - 2) 本種は北米原産の侵入害虫で、国内では平成12年に兵庫県西宮市のセイタカアワダチソウで初確認されている。近畿・中国・四国地区では本県の他に10府県(平成19年7月25日現在)で農作物における発生が確認されている。
 - 5 形態及び生態
成虫は体長が約3mmで相撲の行司が使う軍配に似た形状をしている(図1参照)。前翅に多数の褐色斑紋があり、周縁には小棘が列生することから他のグンバイムシ類と区別できる。幼虫は全身褐色の紡錘形をしており、集団で生活していることが多い。
 - 6 被害の特徴
成幼虫は主に葉裏に生息し、これらの吸汁により、葉表に白いかすり状の白斑点が生ずると共に葉裏には黒い粘液状の排泄物が見られる(図2参照)。被害が甚だしい場合は葉全体が白化し、枯死に至る場合もある。
 - 7 寄主植物
キクやヒマワリ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、ブタクサなどのキク科やアメリカンブルー、サツマイモ、ナスで発生が確認されている。
 - 8 防除対策
 - 1) 圃場周辺のセイタカアワダチソウやブタクサなどのキク科雑草は重要な発生源となるので早期に除草する
 - 2) 薬剤による防除としてキクにはコテツフロアブル2000倍(発生初期/2回)を発生時期に散布する。



図1 アワダチソウグンバイ成虫



A: 葉表 B: 葉裏
図2 キクの被害状況

(2) 第2号(平成19年12月20日)

1 病害虫名 : ミナミアオカメムシ *Nezara viridula* L.

2 発生物種 : ダイズ

3 発生確認場所 : 雲南市(ダイズ、インゲン栽培圃場)

4 発生確認の経緯

1) 平成19年10月6日に九州大学名誉教授湯川淳一博士らが島根県浜田市、江津市、大田市においてミナミアオカメムシの調査を行ったところすべての圃場でミナミアオカメムシが確認されたとの連絡を受け、同年10月10日に島根県東部(松江市、出雲市、雲南市及び斐川町)のダイズ、インゲン圃場において幼虫を採集した。成虫まで飼育したものを湯川博士に同定を依頼したところ、雲南市の個体群でミナミアオカメムシが確認された。

2) 本種は、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島、台湾、中国、東南アジア等に広く分布する。近年では平成14年に福岡県、17年に大分県、18年には静岡県で発生が確認され、温暖化によって分布域を拡大していると考えられる。

5 形態及び生態

成虫は、体長12.0～16.0mmで、アオクサカメムシによく似ているが、体がやや縦長に見えること、触角第3～5節の前半部が褐色(アオクサカメムシは黒色)、半翅鞘革質部の下の腹背部が帯緑色(アオクサカメムシは黒色を帯びる)であることなどで識別できる(図1)。

幼虫は、1～3齢幼虫は体色の違いによりアオクサカメムシと見分けることができるが、4～5齢幼虫は見分けがつかない。

6 被害の特徴

ダイズの本県での被害状況は不明であるが、他県では莢内の子実から吸汁するため、莢が落ちるか肥大せず緑色のまま収穫期まで残る。また、イネでも発生が確認されており、モミを吸汁して斑点米を産出する。他の斑点米カメムシに比べ体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなる。

7 寄主植物

広食性で32科145種の植物を吸汁することが知られている。

8 防除対策

1) 発生を確認したら、各作物カメムシ類登録の薬剤を使用基準を確認した上で散布する。

2) 侵入後まだ日が浅く、発生地が限られていると考えられるため、本県での農作物への加害実態については不明であり、今後調査を行う予定である。



図1 ミナミアオカメムシ成虫
写真提供：福岡県病害虫防除所